

はじめに

平成29年度の国立岩手山青少年交流の家の事業も無事に終了しました。これも地域の皆様に物心ともに支えられ、事業運営にご支援とご協力をいただいたおかげであり、関係各位に厚く御礼を申し上げます。また、各種の事業に参加・協力をいただきました施設ボランティアの皆様方に感謝申し上げます。

社会が豊かになり、生活が便利になる一方で、子どもたちの様々な体験活動が減少しています。独立行政法人国立青少年教育振興機構では、こうした現状に対して、より多くの子どもたちに体験活動を提供するため、社会全体で体験活動を推進する機運を高める「体験の風をおこそう」運動と「早寝早起き朝ごはん」運動を展開しています。今年度の当交流の家では北東北地域の各県の青少年教育施設との連携を強化し広大なエリアに広く事業の趣旨を伝える活動を進めたところです。この活動の浸透の成果として北東北各県における本年度の「体験の風をおこそう推進月間事業」は全国で最も多くのエントリー数が記録をされました。今後も運動の趣旨が困り浸透するとともに各施設の連携と活動の一層の活発化が進むことにより地域の教育力の向上が図られるものと期待いたします。

また、みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会においては保護者の方々にも体験活動の素晴らしさや子どもの成長にとって体験活動がいかに大切であるかに気づいていただくことを狙いとして「親子で行う体験活動」の事業を拡充いたしました。これら各事業は抽選となってしまふほどの高い人気を博しており運動の普及・啓発の取り組みとして今後も継続していきたいものと思っております。

本年で7年を経過した東日本大震災を経験した岩手県として次代を担う内陸部の児童生徒を対象として防災学習と復興する現在の岩手県沿岸部を体験する「さんりく体験！発見隊」も沿岸部の各施設及び民泊家庭の皆様方に協力をいただき実施することができました。同時に沿岸部の子どもたちを対象としたリフレッシュキャンプ「kids together えいごde キャンプ in テンパーク」も海外ボランティアの参加を得て本年も実施することができました。

その他の各事業とも、参加する「初めの会」での子どもたちの期待と不安の目と事業に参加した後の目の輝きと自己肯定感の高まりには気づかされるが多々ありました。今後とも職員一同、質の高い体験活動の機会を提供するとともに体験活動の重要性を広く伝えて参りたいと思っております。

平成30年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家 所長 松田 栄二